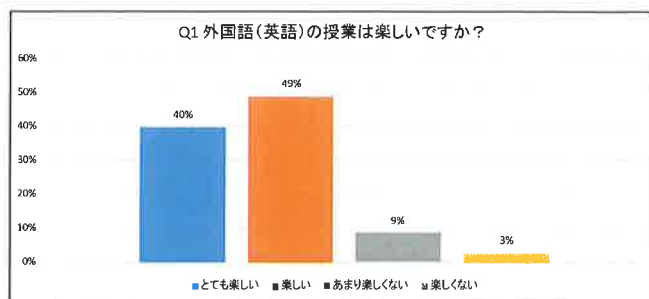


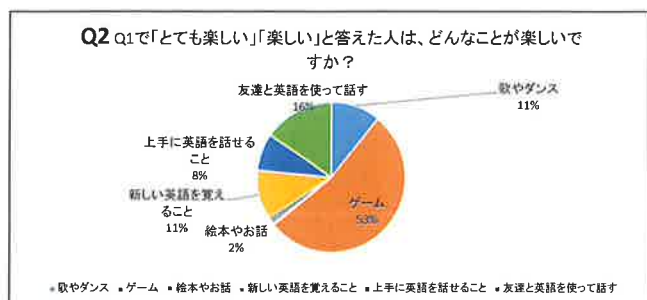
令和6年度外国語(英語)の授業に関する児童用アンケート調査結果の分析・考察(松橋小)



【Q1について】

○ 90%近くの児童が外国語(英語)の授業を楽しいと回答しており、昨年度と比較すると8ポイント上昇している。

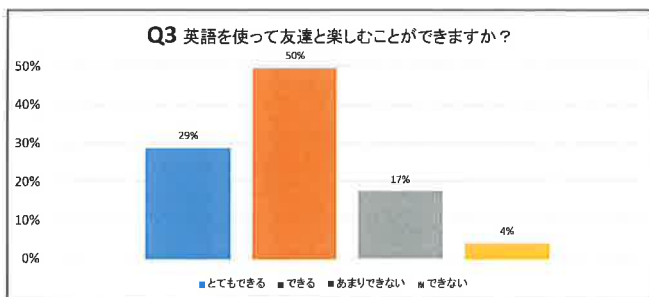
○ 肯定的な回答は増えたものの、11%の児童は、「あまり楽しくない」「楽しくない」と回答しており、意欲が高まるような活動を意図的に設定していく必要がある。



【Q2について】

○ 「新しい英語を覚えること」に楽しさを感じている児童が、昨年度の0%から11%に上昇し、学びそのものに楽しさを感じ始めている様子がうかがえる。

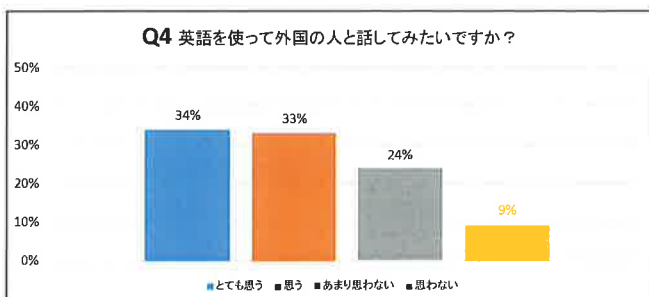
○ 引き続き、歌やゲームの楽しさだけでなく、英語を覚えたり、覚えた英語を実際に会話の中で使ってみる活動を通して、英語の学習の楽しさを味わえるよう工夫していきたい。



【Q3について】

○ 80%近くの児童が「英語を使って友達と楽しむことができる」と回答している。

○ 引き続き、児童同士で取り組む活動を意図的に設定し、互いに楽しさを共有できるよう工夫していきたい。



【Q4について】

○ 「外国の人と話してみたい」と回答した児童が、昨年度からわずかに上昇した。

○ 30%以上の児童が、外国の人と話すことに対して消極的な回答をしている。児童一人一人が、英語を話すことへ自信がもてるよう、ALTを活用しながら、できたことを認めていきたい。

【保護者・学校関係者からの意見・要望等】

保護者

○ 外国の方(ALT)と早い段階で触れ合えるのは、とてもいいと思う。抵抗感なく、接することができるのではないかな。また、日本だけでなく、外国の文化を知るきっかけにもなっていると思う。

学校関係者

○ 低学年から外国語(英語)に親しみ、6年間で学習したことを活用して中学校での学びにつなげてほしい。

【考察・今後の展望等】

○ 教師主導ではなく、児童が主体的に学びに向かうことができるような授業づくりを目指す。

○ 英語専科とALTが連携を取りながら、学習した英語を活用する機会を多く設定していく。